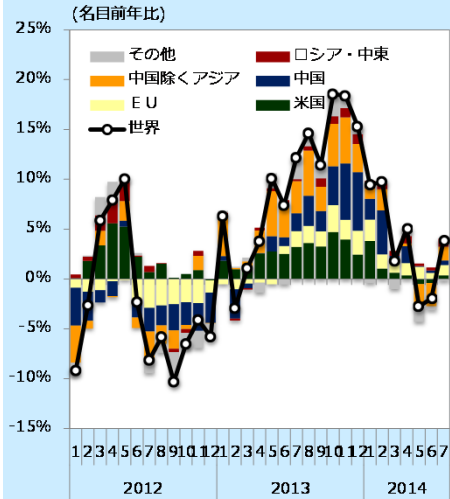


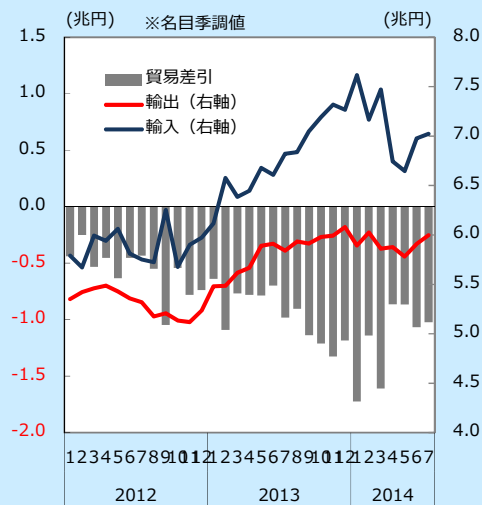
日本：貿易統計（2014年7月）

MRI Daily Economic Points
August 21, 2014

地域別輸出



輸出入と収支



評価ポイント

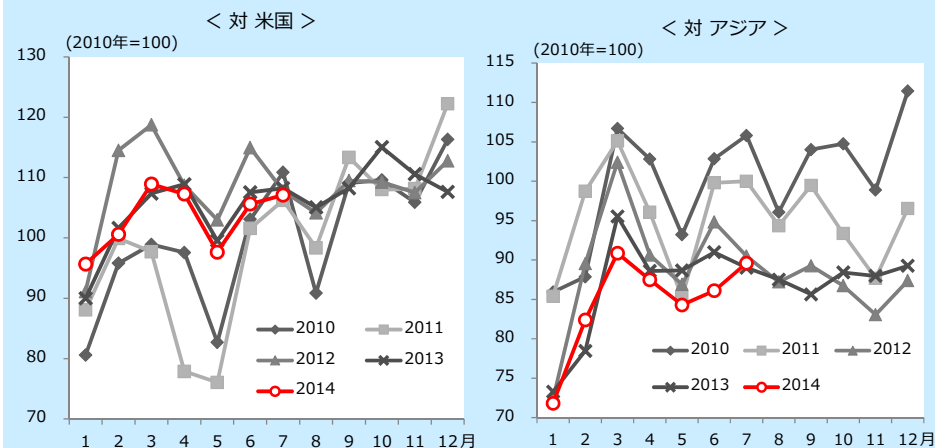
2014年7月の結果

- 7月の貿易統計は、輸出が前年比+3.9%と3ヶ月振りに増加し、輸入は同+2.3%と2ヶ月連続の増加。貿易収支は、▲9,640億円となり、季調値では▲1兆238億円と前月(▲1兆678億円)から赤字幅が拡大した。
- 輸出は3ヵ月ぶりの増加となったが、数量ベースでは前年比+0.9%にとどまっており、均してみれば前年比横ばい圏内で推移しており、低調な推移が続いている。
- 輸出数量を地域別にみると、EU向けが前年比+3.6%と回復基調を維持している一方、アジア向けが+0.6%と依然として低調な推移、米国向けは水準は高いものの同▲1.0%と4ヶ月連続で前年を下回った。
- 米国向けの減少は、同国向けの主要な輸出品目である自動車と同▲13.4%と大幅に減少している影響が大きい。日系メーカーによるメキシコ等への生産拠点の移転が影響している可能性もある。
- 日銀の実質輸出入によると、7月の輸出は季調済前月比+2.2%と3ヶ月振りの増加、輸入は同▲1.3%と2ヶ月振りの減少となった。

基調判断と今後の流れ

- 輸出の先行きは、世界経済の緩やかな回復を背景に、14年後半にかけて持ち直しの動きをみせるであろう。しかし、先進国、新興国問わず、海外生産比率や現地調達比率の上昇などの構造要因もあり、輸出相手国の回復ほどには日本からの輸出が伸びない可能性がある。
- 貿易収支は、輸出の回復が遅れるなか大幅な改善は期待できず、当面は現状程度の貿易赤字の継続を見込む。

地域別輸出数量指数



資料：財務省「貿易統計」